

## アット東京のクラウド接続サービス

# メガクラウドと閉域接続 ライブ配信等で力を発揮



**松下祐也氏** (株)アット東京 営業本部 ソリューション営業部 ソリューション営業グループ チーフ  
**加藤木愛里氏** 同 営業本部 ソリューション営業部 ソリューション営業グループ

インターネットライブ配信を手掛ける放送局やケーブルテレビ局が急増中だ。また、クラウドで撮影、編集、アップロードまで一気通貫で行えるソリューションも続々と誕生。映像制作のワークフローが変わろうとするなか、放送事業におけるクラウド活用に注目が集まっている。最高水準の設備インフラと高度な設備運用技術を有する国内大手のデータセンター、(株)アット東京(東京・江東区、中村晃社長)は、クラウドネイティブ時代にデータセンターだからこそ実現できるセキュアで広帯域のクラウド接続サービスを提供している。データセンターをメガクラウドとの接続拠点とするアット東京のサービスとそのメリットを、営業部のキーパーソン2人に伺った。

### アット東京は「メガクラウドから至近距離のデータセンター」

—アット東京は、2017年からクラウド接続サービスを開始しました。クラウド接続サービスの特長を教えてください。

**加藤木:**近年、放送局がインターネットライブ配信を行うケースが増えています。高画質映像をそのまま遅延なくお届けするには、広帯域でセキュア、かつ安定したネットワークが必要です。

アット東京のデータセンターは、メガクラウドとのPoP(Point of Presence:接続ポイント)があり、メガクラウドに極めて近い距離で直接接続が可能ですので、メガクラウド間での閉域ネットワークが構築でき、セキュリティ&レイテンシーの課題をクリアできます。

**松下:**アット東京は、クラウド接続サービス開始以前から「つながる」データセンターを目指してきました。従来のデータセンターは、大事なデータを保管する場所といいますが、倉庫のようなイメージが強いビジネスですが、アット東京のデータセンターは、主要なIXやISP事業者、国内外30以上のキャリアと接続されています。このように、アット東京は「キャリ

アニュートラル」なデータセンターであり、お客さま同士の連携も可能な、まさに「つながる」データセンター」です。

アット東京は、東京・大阪・福岡でデータセンターを運営し、各データセンター間、さらに、提携データセンターともネットワークでつながっています。そしてアット東京では、このネットワーク上でのレイヤ2接続が可能な「ATBeX」(アットベックス/AT TOKYO Business eXchange)というサービスを提供しています。「ATBeX」を活用いただくと、全国どこからでも1本の物理接続でクラウドサービスや複数の企業と連携できます。東京、大阪、福岡に続き4月からは広島にも「ATBeX」接続ポイントが新設されますので、各地域からのメガクラウドへの閉域接続がさらに利用しやすくなります。

この「つながるデータセンター」の実績によって、メガクラウドから接続ポイントに選定されています。データセンター事業者は多数ありますが、メガクラウドと直接接続可能なデータセンターは限られています。

—放送局やケーブルテレビ局におけるクラウド接続サービスの活用事例などはありますか。

**加藤木:**アット東京では、お客さまの環境や仕様に応じて、3種類のサービスを提供しています(図参照)。

あるスポーツの配信を手掛ける事業者さまは、東京と大阪からAWSクラウドに接続し、「AWS Elemental Live」を使用してライブ配信をなさっています。この配信事業者さまは全国のさまざまな場所から中継を行なっていらっしゃる。中継用の専用線が敷設できる大型競技場であれば問題なく「ATBeX」経由でクラウドサービスに即接続できますが、

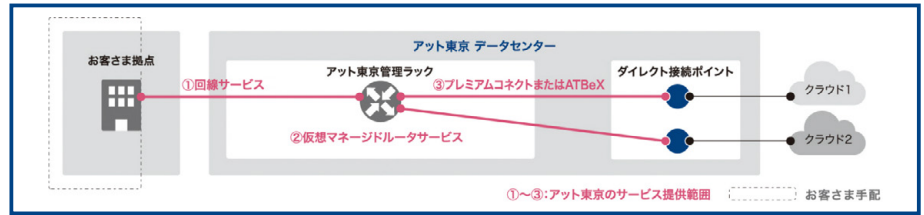
「アット東京Cloud Lab(クラウドラボ)」



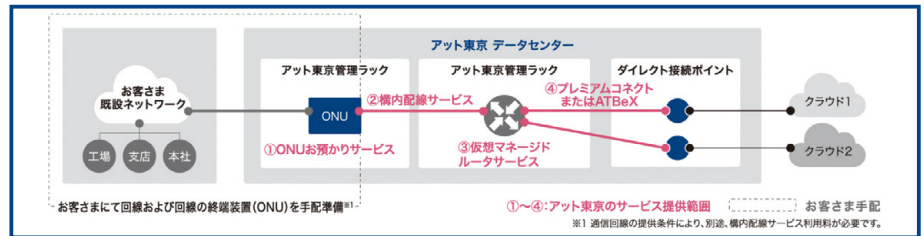
小規模施設の場合、専用線を敷設できない場合もあります。また、中継場所が全国各地にあり、その都度専用線を敷設し、その地域のネットワークベンダーさまに設定を依頼するのは労力もコストもかさみます。そこで、スポーツ会場にルータを設置し、回線に「NTTフレッツ・光（フレッツ・v6オプション）」とクラウド接続に「ATBeX」を利用した結果、複数会場からの同時ライブ配信が可能になったのです。これならば、「今週は東京、来週は群馬」といった過密スケジュールでも容易に中継体制を整えることができます。

**松下:**以前はインターネット経由でのVPN（Virtual Private Network:仮想専用線）でも安定した速度を保つことができましたが、YouTubeの利用増やコロナ禍によるオンライン授業、そしてオンライン会議等のトラフィック増もあり、VPNでの伝送が不安定になってきています。閉域網の「ATBeX」ならば安定した配信が行えます。

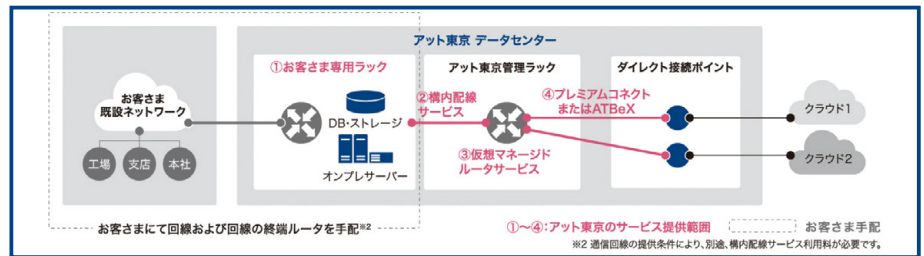
■ FULL PACK (お手軽パック)



■ BYO Comms PACK (回線だけ持込パック)



■ BYO PACK (持込パック)



ケーブル局とのコラボによるクラウド接続サービス提供に向けて

「クラウドを試したい」「短期間利用したい」等のニーズに応えるサービスはありますか。

**加藤木:**アット東京では、2019年5月から「アット東京Cloud Lab(クラウドラボ)」のサービスを開始しました。

データセンターやクラウドは、最低利用期間が1年というような長期契約が一般的です。一方で、「クラウドやデータセンターの活用を検討する際に事前に試してみたい」「事前に伝送の安定性を確認したい」といったニーズがあります。また、「イベント用に1カ月間使用したい」「ライブ中継時に使いたい」といった短期間利用のご要望も増えています。このようなお客様の声に応えたのが「アット東京Cloud Lab」です。

このサービスでは、アット東京のデータセンター内にメガクラウドのPoPと直接接続可能なレンタルスペース(作業室、ハウジングラック)があり、こちらを1日単位でお使いいただけます。「ATBeX」にLAN接続するようなイメージで、簡単かつすぐにご利用いただけます。ま

た、外部への接続も可能なので、大容量コンテンツをリアルタイムで扱うようなライブ配信などにも適しています。

**松下:**インターネット経由と「ATBeX」経由でのクラウド接続でのレイテンシーや安定性の比較検討の場としてご利用いただくケースも多いですね。「Cloud Lab」は東京のみとなっていますが、ぜひ活用いただければと思います。なお、アット東京のデータセンターは、東京・大阪・福岡ともに主要駅からのアクセスが良い好立地にあります。都市部にあるデータセンターは少ないようで、この面でもお客さまに喜ばれています。

クラウド接続サービスの新たな展開などはありますか。

**松下:**地方におけるクラウド接続用のPoPが少ないという課題があると思います。私たちは「ATBeX」のアクセスポイントを福岡、広島な

ど地方にも展開しており、地方のISP事業者やケーブルテレビ局の皆さまとのネットワークがあります。ケーブルテレビ局の光ファイバーネットワークと「ATBeX」を接続し、このネットワークを介して地方の企業向けクラウド接続サービスが提供できないかを現在検討しています。例えば、ケーブルテレビ局のサービスエリア内の企業がクラウドを検討している場合、ケーブルテレビ局のインターネット接続サービスを活用いただき、ケーブルテレビ局が営業窓口となり、企業にクラウド接続サービスを提供するイメージです。これにより、地方の企業はPoPを意識せずにクラウド接続が行えますし、ISPやケーブルテレビ局もBtoB向けの新サービスの提供が可能になります。

**加藤木:**放送局をはじめメディア業界の方々の利用が増え、当社にもさまざまな実績が積みあがってきています。配信時のネットワーク構成などを含め、最適なソリューションをこれからもご提案していきたいと思っています。

アット東京 <https://www.attokyo.co.jp/>  
 アット東京Cloud Lab <https://www.attokyo.co.jp/connectivity/cloudlab.html>  
 ATBeXポータル(ATBeXサービスサイト) <https://atbex.attokyo.co.jp/>